

サンマデモクラシー

SANMA DEMOCRACY



オキナワ
爆笑珍騒動!!!

沖縄がまだ日本でなかった
頃に起きた
落語のような
ホントのはなし

監督・プロデューサー 山里孫存 ナビゲーター うちな〜嘶家 志いさー ナレーション 川平 慈英 音楽 巻く音 / Jujumo 撮影・編集 祝 三志郎
製作協力 公益財団法人 民間放送教育協会 製作 沖縄テレビ放送 配給 太秦 【2021/日本/DCP/カラー/99分】 © 沖縄テレビ放送



城北法律事務所企画
映画上映 & 監督トーク
参加費 500 円 (税込)

申込不要・先着順

2022年 **9** 月 **16** 日 (金)
【映画上映】 上映開始 18:30 ~ (開場 18:00)

(上映終了後) ゲスト **山里孫存** 監督
【トーク】 弊所弁護士 和田 壮一郎

場所：IKE・Biz としま産業振興プラザ 6階多目的ホール
(豊島区西池袋 2-37-4)

※満席の場合、ご参加いただけない場合がございます。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況により当日の座席数を変更する可能性があります。

お問合せ 城北法律事務所 Tel.03-3988-4866 (担当ジョウエイ・オオタ)



物語

沖縄史に埋もれた 伝説のサンマ裁判を描き出す ノンストップドキュメンタリー

1963年沖縄。祖国復帰を願う沖縄の人々が、日本の味として食べていたサンマ。サンマには輸入関税がかかれていたが、その根拠は琉球列島米国民政府の高等弁務官布令、物品税法を定めた高等弁務官布令十七号(1958年公布)。だが、関税がかかると指定された魚の項目に、サンマの文字はなかった。そこで「関税がかかっているのはおかしい!」と、魚卸業の女将・玉城ウシが、琉球政府を相手に徴収された税金の還付訴訟を起こした。求めた額は、現代の貨幣換算でなんと7000万円。このウシおばあが起こした“サンマ裁判”は、いつしか統治者アメリカを追い詰める、民主主義を巡る闘いとなった。

裁判を展開した人々の視線の先には、帝王と恐れられた1961年初めから1964年夏まで第3代高等弁務官を務めたポール・W・キャラウェイがいた。キャラウェイ高等弁務官は、沖縄経済の改革に尽力したが、布令を何度も発令して民衆を縛り付け、本土復帰運動をも弾圧した施政を展開。沖縄のメディアはその猛威をキャラウェイ旋風と名付けた。キャラウェイ高等弁務官に挑んだウシおばあはサンマ裁判をきっかけに、その裁判を支えた弁護士であり、大きなことを言うことからラッパと呼ばれた政治家・下里恵良、“米軍(アメリカ)が最も恐れた政治家”・瀬長亀次郎らの行動をたどり、統治者アメリカと自治権をかけて闘った人々の姿を伝える。

企画趣旨

今年には沖縄復帰50年。

復帰前、沖縄ではアメリカの理不尽な統治に抗う人々がいました。

「おかしいことはおかしい」と声を上げたウシおばあはサンマ裁判は、その後の祖国復帰運動へとつながっていきます。

復帰後。沖縄はいまだに米軍基地の負担に苦しめられています。

復帰によって沖縄で民主主義は実現したのでしょうか。

スピード感あふれる音楽や語りなどの演出による、涙あり笑いありのこの映画。

現在に連なる沖縄の闘いから見えてくるものは何か、みなさまとともに考えたいと思います。

ぜひ、ご参加ください。

会場

イケビズ IKE・Biz としま産業振興プラザ 6階多目的ホール

東京都豊島区西池袋 2-37-4

TEL: 03-3980-3131

(池袋駅西口より徒歩約10分、南口より約7分)

